

# 生物資源産業学部生物資源産業学科を新設

2016年(平成28)4月

2016(平成28)年4月に、生物資源産業学部が設置された。四国4県の中で農学系学部が設置されていないのは徳島県のみであったが、徳島大学と徳島県の密接な連携により、徳島大学では30年ぶりに誕生した新学部である。本学部の構成は、1学科(生物資源産業学科)、3コース(応用生命コース、食料科学コース、生物生産システムコース)からなり、入学定員100名である。初代の学部長は辻明彦教授が就任し、2018(平成30)年度からは辻学部長の任期満了に伴い、横井川久己男教授が学部長に就任した。教員組織は、工学部生物工学科、総合科学部環境共生コース、医学部栄養学科、歯学部、及び薬学部からの教員と新たに外部から採用した教員で編成された。本学部は、「1次産業、食料、生命科学に関する幅広い知識と、生物資源の製品化、産業化に応用できる知識と技術を有し、国際的視野に立って、生物資源を活用した新たな産業の創出に貢献できる人材を育成する」ことを基本理念としている。また、

同時に生物資源産業学研究部が設置されたが、2017(平成29)年度に社会産業理工学研究部生物資源産業学域に改組された。

農学系学部は付属農場を有することが必須要件である。石井町の徳島県農業大学校の跡地が、徳島県から徳島大学に無償貸与されて徳島大学石井キャンパスとなり、本キャンパスの農場が生物資源産業学部農場となった。石井キャンパスには2016(平成28)年7月に、我が国における有数の疾患モデルブタ作製施設であり再生医療技術の高度化等を目的とする「創薬・医療機器開発施設」が設置された。また、2018(平成30)年8月に、日本ハムからの寄贈設備で食肉加工研究室が設置された。一方、学部設置と共に鳴門市には海産資源の効率生産等を目的として水圏教育研究センターが設置された。なお、生物資源産業学部農場では教育研究の一環で稲の栽培も行っており、2018(平成30)年から「徳大農場米」として販売を開始している。



生物資源産業学部農場



創薬・医療機器開発施設



水圏教育研究センター



学部新設・改組及び新研究所等設置記念式典



エコ棟に掛けられた学部看板



徳大農場米の販売開始



屋外培養水槽